

# 日本慢性看護学会 特別委員会B報告

## 専門看護師教育課程の現状とニーズに関する調査

○野川道子<sup>1</sup>・松下由美子<sup>2</sup>・長谷佳子<sup>1</sup>・藪下八重<sup>3</sup>

北海道医療大学看護福祉学部<sup>1</sup>， 山梨県立大学看護学部<sup>2</sup>，  
大阪府立大学地域保健学域看護学類<sup>3</sup>

### I. はじめに

日本慢性看護学会では、慢性看護の発展のために慢性看護専門看護師教育課程を設置する大学を増加させることを目指して、本学会として支援できることを検討するために、修士課程における現状についてアンケート調査を実施した。

### II. 調査方法

日本看護系大学協議会加盟校の210課程を対象に郵送でのアンケート調査を実施、調査期間は2012年9月~10月。調査内容は、修士課程設置状況、CNS教育課程設置状況と課題、慢性看護CNS教育課程設置状況、必要な支援と課題など。

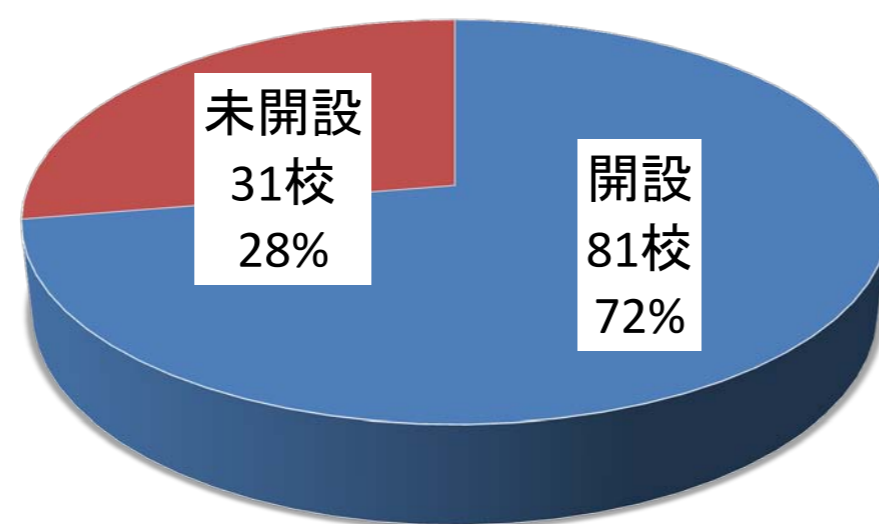
### III. 結果

#### 1. 回収数(回収率) 112(53.3%)

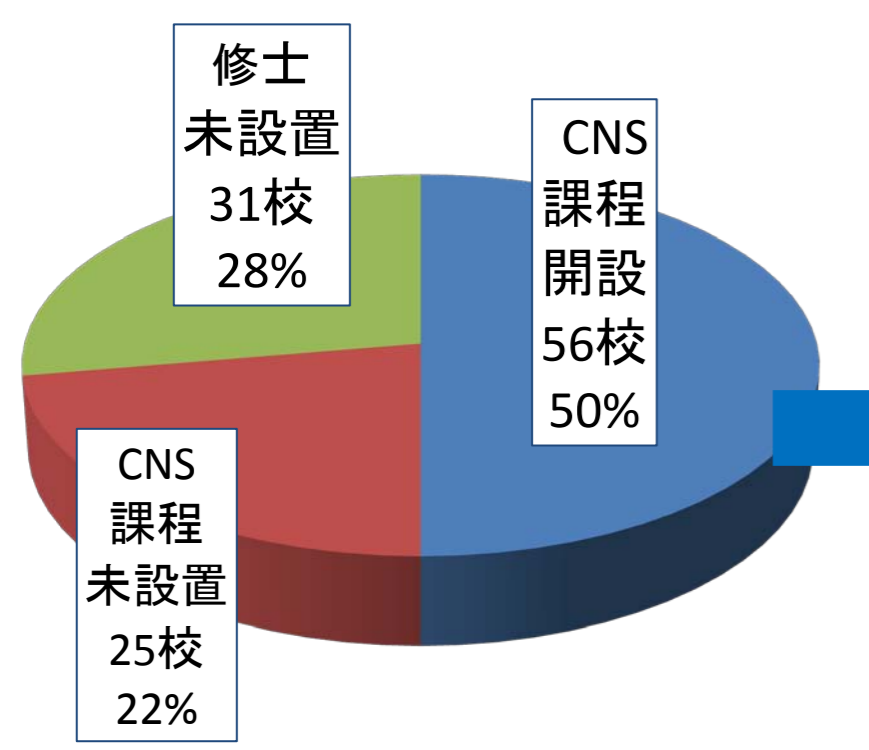
#### 2. 設置主体 と修士課程開設状況

	配布数	回収数	回収率
国立大学と大学校	43	26	60.5
公立大学	47	28	59.6
私立大学	120	58	48.3
合計	210課程	112課程	53.3%

回答112校 修士課程開設状況



#### 3. CNS教育課程設置状況と開設分野

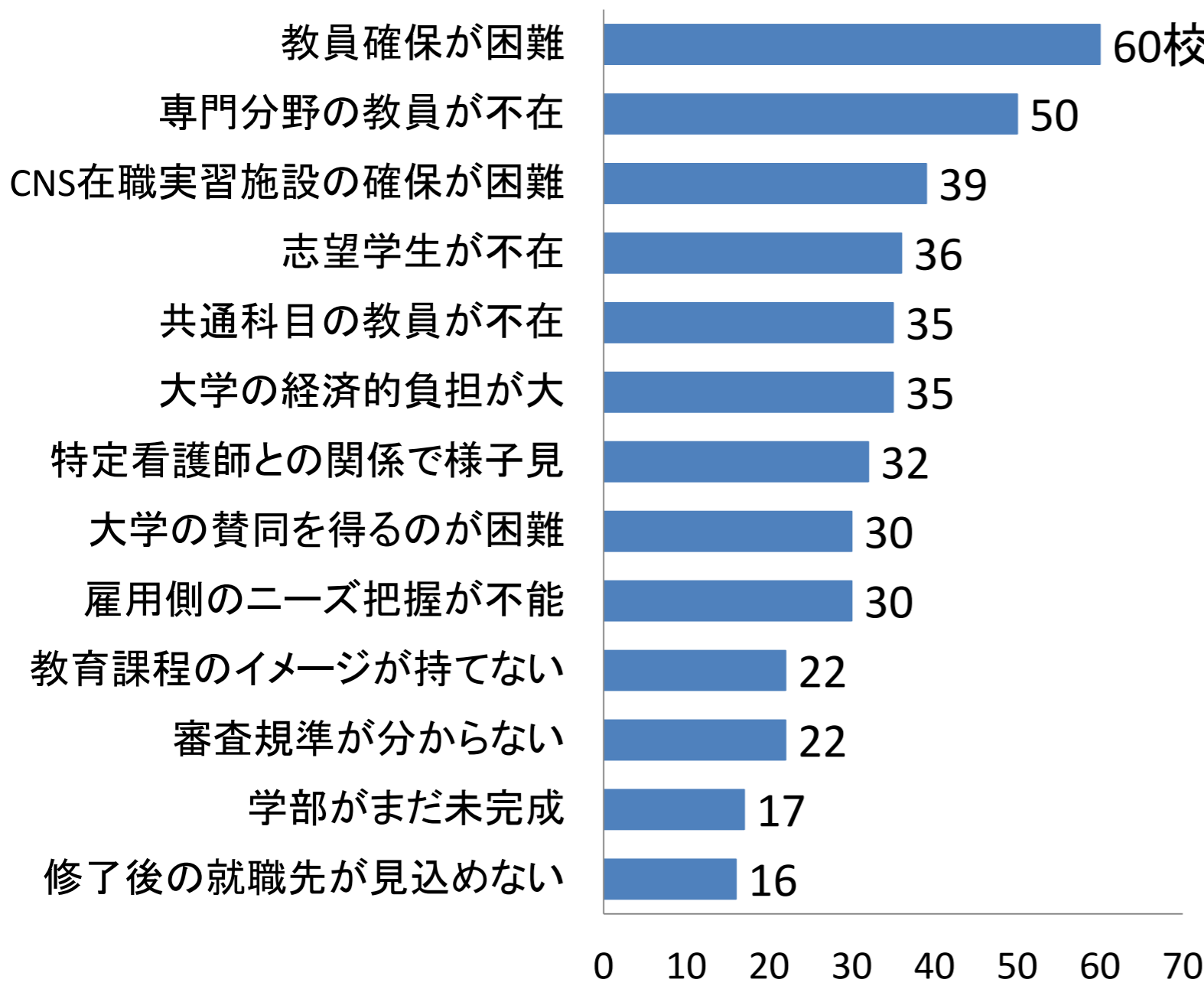


開設分野	開設	認定済
がん看護	39校	35校
慢性看護	21	15
母性看護	13	8
小児看護	20	14
老年看護	21	14
精神看護	20	15
家族看護	4	3
感染看護	9	8
地域看護	10	8
クリティカルケア看護	17	13
在宅看護	9	8

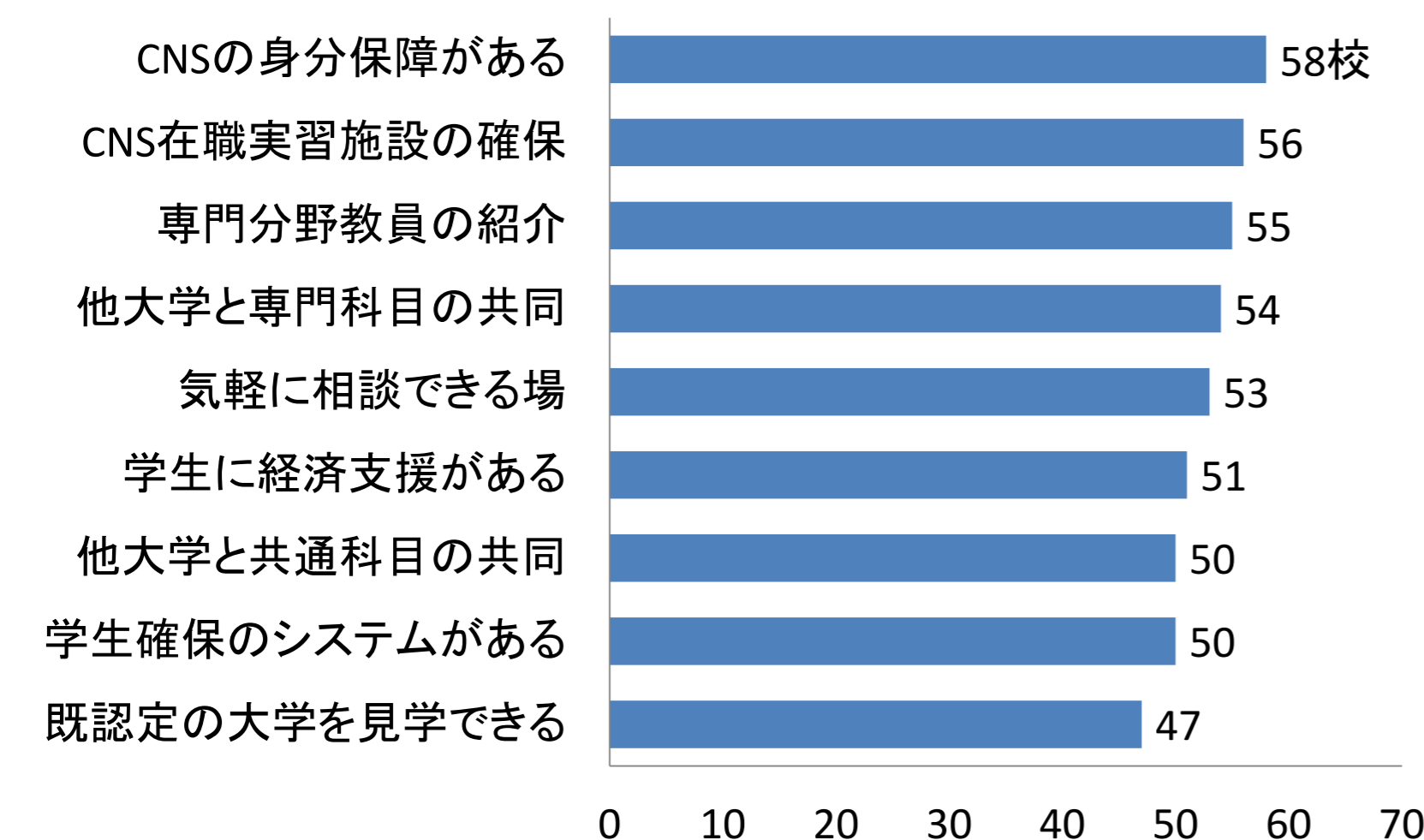
#### 4. 慢性看護CNS教育課程未設置の理由と課題(91校)

慢性看護CNS教育課程が未設置の91校の、未設置の理由は教員確保が困難、実習施設が確保困難、志望学生が不在の順であった。設置に向けて必要な支援は、CNSの身分保障があること、実習施設の確保、教員の確保の順であった。

##### 未設置の理由(複数回答)



##### 設置にあたって必要な支援(複数回答)



#### 5. 慢性看護CNS教育課程設置大学 21校の回答

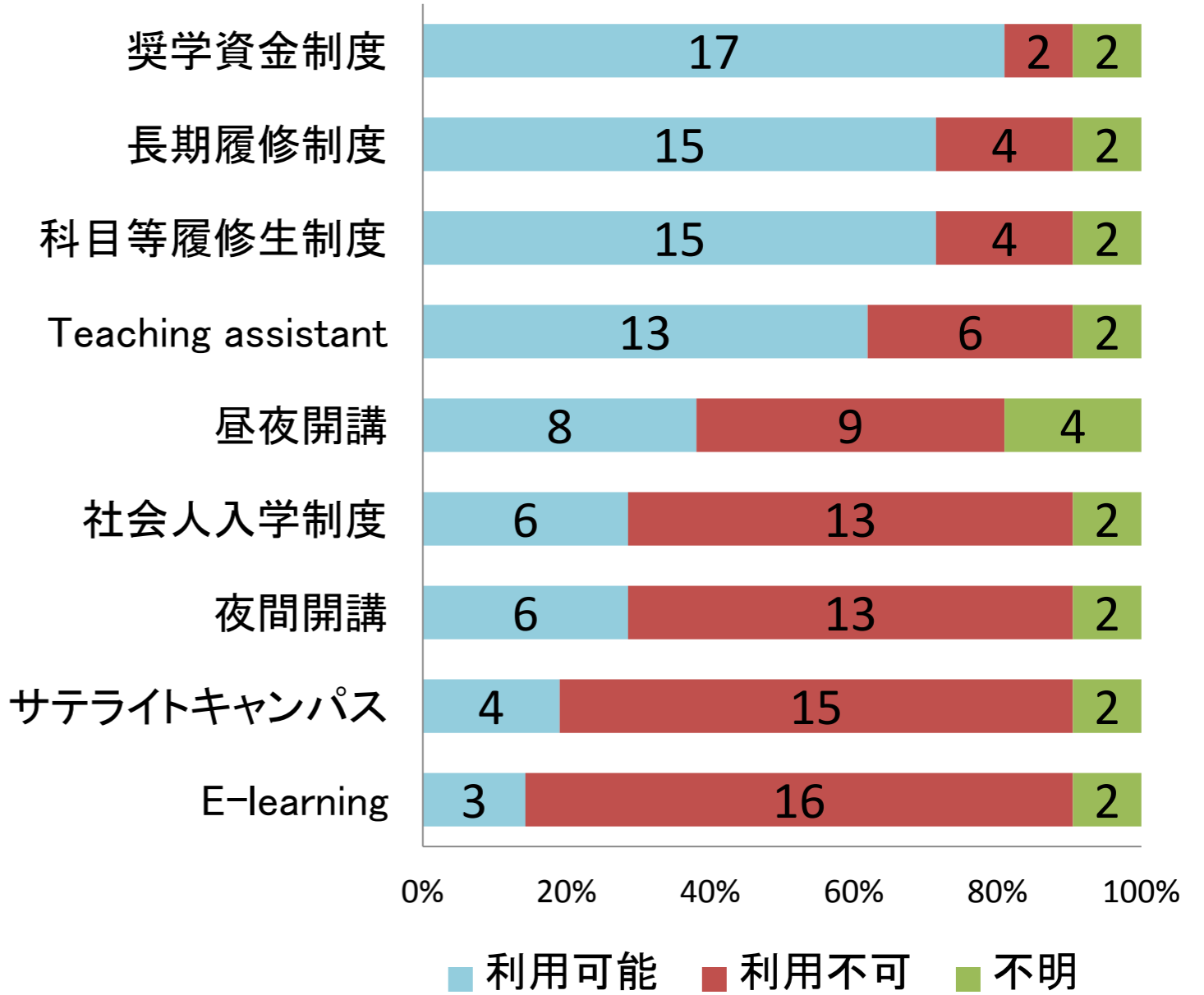
1) 慢性疾患看護CNSの認定資格取得率(11校回答)  
平均 29.06±SD25.65% (0~76%)

#### 2) 慢性看護CNS教育課程の運営状況

運営は順調とどちらかという順調を合わせると約70%、不調が約25%であった。

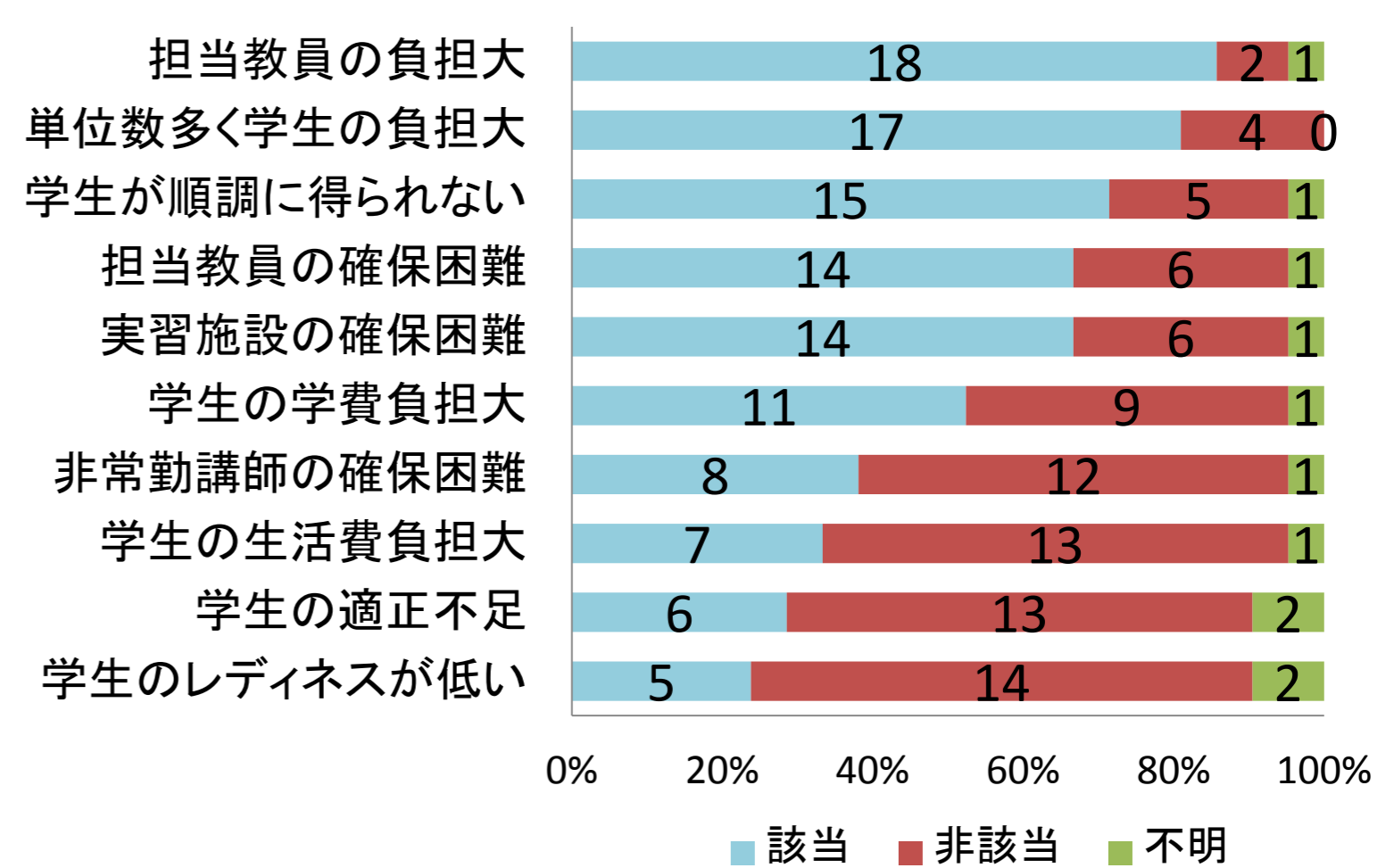
	度数	%
順調	3	14.3
どちらかという順調	11	52.4
どちらかという不調	5	23.8
不明	2	9.5
合計	21校	100%

#### 3) 学生が活用できる制度(複数回答)



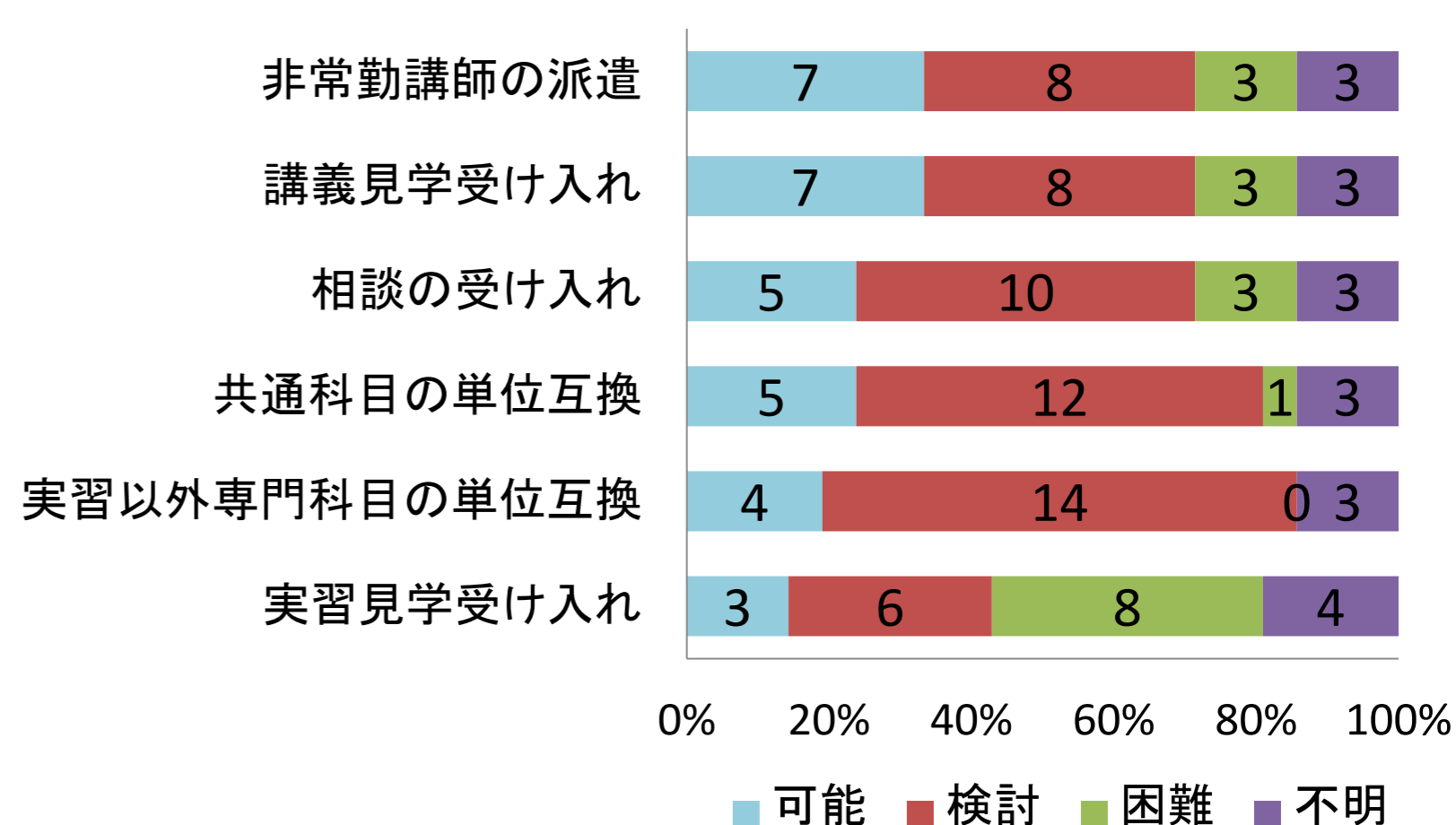
#### 4) 慢性看護CNS教育課程運営上の問題(複数回答)

運営上の問題としては、教員の負担が大きいこと、単位数が多く学生の負担が大きいこと、教員や実習施設の確保困難が上位にあがった。



#### 5) 他大学との共同や支援提供の可能性(複数回答)

共通科目や専門科目の単位互換が可能なのは5校であるが要検討が多いことから、今後、支援の可能性が高いと思われる。



### IV. 考察

慢性看護CNS教育課程が未設置の理由としては、①適切な教員の確保が困難という大学側の問題、②CNSが在職する実習施設の確保が困難という施設側の問題、③志望学生が不在または雇用側のニーズが把握できないなどの教育ニーズに関する問題の3つに分類できた。一方、教育課程を設置している大学では、CNS認定資格取得率に大学間で差があること、担当教員や単位取得での学生の負担が大きいこと、学生の確保が困難という問題があげられた。以上の結果から、慢性看護CNS教育課程の設置を促進するには、CNSの役割に対する社会的な認知や身分保障、CNS教育を担える教員の養成、大学間での単位互換などの協働に加えて、必要単位を適切かつ効果的に取得させることができるカリキュラムや教育方法の検討が急務であると考えられる。